

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名

【 熊本県 】 天草市立本渡中学校

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	生徒 772 名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (学校行事) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会への機運を高める。
5 取組内容	オリンピックによる講演会及び実技指導 平成29年12月11日(月)に本校にて、川上優子氏(陸上競技・10000m)を迎え、講演会及び実技指導を行った。 (1) 講演 『思い立ったが挑戦の吉日』という題で行われた講演では、オリンピックとの多様な関わり方、オリンピックに出場したときの思い出、オリンピック出場を目指した経緯、陸上競技生活で得たことについてお話いただいた。 オリンピックとの関わり方に関しては、選手として参加するだけでなく、自分の得意な分野を生かして自分なりの関わり方があることをお話しいたいただいた。 出場したアトランタオリンピックでは、絶不調の中でのレースで大変だったが、一生に一度かもしれない、という思いで悔いのないようにと思って走った、という。このような頑張りが出来た背景には、夢をもっていたことと、小さい頃から負けず嫌いであったことがあった。また、元々高校までは記録がなかなか出なかったが、自分は絶対にやれるんだ、という強い思いを持ち続けていたことで、実際にオリンピックに出場ができた。だから、「なりたいなあ」という願望ではなく、「なる」という強い意志をもつことで自分自身の行動を変えていった。

	質疑の時間には、以下のやり取りが行われた。 「やる気が出ないときに、どう解決すればいいのか？」 ⇒「自分もそういう時があった。その時は周りの人に助けられて克服することができた。自分が諦めずに続けてやっていたら、周りにそれを応援してくれるひと、支えてくれる人もいてくれる。その人たちにたくさん支えられてきた。とても感謝している」 「きつい練習の時は、どうしていたか？」 ⇒「きつい練習をいかに楽しくやるかを考えていた。それは、怠ける事ではない。自分の好きなものは、どんなにきつくても頑張ることができる。そして、その小さな積み重ねが必ず大きな夢につながると自分で信じてやるようにしていた。それが自分の自信につながってきたように思う。」
6 主な成果	講演内容からみた成果 ・目標をもって努力をすることの重要性を学んだ
7実践において工夫した点 (事業の特色)	質疑・応答の時間を長く取ることで、生徒の身近な課題や悩みについて川上さんからのアドバイスを受けることができた。
8主な課題等	走り方のフォームなどの質問もあったが、講演形式のみだったので、事前に生徒の質問等を把握し、動ける時間を設定すればよりよかった。
9来年度以降の実施予定	実施予定